

日高地区 新規就農者紹介



2026年7月取材

宮本 章弘 さん（日高町）

就農年：2025年4月

経営形態：施設園芸

作物：ミニトマト、アスパラガス

【就農のきっかけ】

前職場（千葉県）に、製鉄関連会社技術系総合職として入社し、2年が過ぎたころから、現在の仕事が自分に合わないのではないかと思い始めました。実家は和歌山県にあり「みかん、梅、米」を生産する小規模な兼業農家でした。家業を継ぐことを考えたことはなく繁忙期に手伝いをしていた程度でしたが、自分のやり方次第で成長できる農業が自分に向いていると思い始めました。農業をするなら北海道でと思い、雪が少なく比較的交通の便が良い地域で、初期投資が少なく済む施設園芸での就農を模索していました。コロナ禍でしたので北海道農業公社新規就農担当者とオンラインでの面談や、新規就農者を募集していた日高町役場やJA門別へ架電したところ面談を受けることができました。就農するにあたり研修制度の充実や初期投資が少ない等希望通りの条件だったこともあり日高町にお世話になることにしました。

【活用した事業】

- 農林水産省「就農準備資金・経営開始資金」、「経営発展支援事業」
- 日高町「日高町新規就農者促進対策事業」



農薬散布機



トラクター

【営農について】

現在はハウス施設で、ミニトマト5棟（25a）とアスパラガス4棟（20a）を栽培しています。アスパラガスは令和9年までに2棟（10a）増やす計画です。

労働力は私と週20時間のパート3人、週1日のパート2人です。

【就農して苦労したこと】

3年間の地域おこし協力隊のうち、最初の2年間は、乳牛、ミニトマト、アスパラガス等と複数の農家での研修で、最後の1年間は、JA研修施設において、JA職員、北海道農業普及改良センター職員及び先輩生産者から指導を受けながらミニトマトの生産・管理を自身で行う研修でした。

その時の感想としては、生産している作物は違うのですが、生産するための作業手順や管理工程等は実家の手伝いをしていたこともあり想像通りでした。

実際に就農してみると、作業手順（準備）、生育状況の見極め等の知識・経験が未熟・不足していたため施肥、防除等のタイミングが遅れるなど収量に大きく影響が出てしまいました。

また、就農初年度だった去年は、猛暑の影響で、ミニトマトが着果できなかったこともあり、収量が地域の平均単収（4.5トン/10a）を下回る結果になってしまいました。



アスパラガス



ミニトマトのわき芽処理

【工夫している点】

こだわりはありませんが、いかに手間をかけずに収量を上げるかでしょうか。ミニトマトの株数は平均よりも2割ぐらい少なくしています。収量減は1割以下ですね。株間が広がって葉が重ならないから意外と収量が落ちない。実の位置がわかりやすかったりするので作業性も上がるので効率が良くなります。

【今後の展望】

冬期間は農作業がないので、その間に収穫や植付けの準備だとか何か農作業をやりたいですね。今は、施設栽培ですけど、露地栽培の土地があれば、何かにチャレンジしてみたいです。



給水パイプ



労働後のハイカラ



軽トラック

【オフタイム（冬場含め）の過ごし方】

狩猟免許を取得したので、去年から冬期間は鹿を撃ちに行っています。去年から今年にかけて、何頭か撃ちました。日高町では有害鳥獣の鹿1頭が1万2千円です。自分で撃った鹿のお肉を食べてみるのですが、匂いが強くて微妙です。カレーなら食べられますが。ステーキとかはちょっと臭くてダメでした。血抜きとかちゃんと処理できていれば臭くはないんでしょうけど、難しいですね。

【就農を目指している方々へのアドバイス】

就農当初はすべて順調にできるとは限らないので、生育状況等に応じた対処方法や栽培技術に関して普及員やJA営農担当者、身近な先輩など相談できる人に遠慮なくアドバイスを求めることが一番の近道です。